

第1学年の実際

1 単元名 1-Oわくわくランドで遊ぼう（器械・器具を使つての運動遊び 跳び箱を使った運動遊び）

2 単元設定の理由

(1) 児童の実態

本学年の児童（男子41名、女子49名・計90名）で跳び箱に跳び箱を使った運動遊びにおける実態調査をしたところ、次のような結果が得られた。

とびばこで あそんだり うんどうしたり することは たのしいですか。			
とてもたのしい	たのしい	あまりたのしくない	たのしくない
61名	23名	4名	2名

とびばこ や たいやに とびあがって のったり とびこえたりすることは こわいですか。		
ぜんぜんこわくない	すこしこわい	こわい
72名	12名	6名

とびばこから とびおりることは こわいですか。		
ぜんぜんこわくない	すこしこわい	こわい
74名	9名	7名

多くの児童が就学前に跳び箱やタイヤをまたぎ越すなどの遊びを経験するとともに、それを楽しいと感じている。一方、跳び箱に跳び乗ったり、跳び箱から跳び下りたりすることに恐怖心をもつ児童も数名いることが分かった。

(2) 単元のとらえ

跳び箱を使った運動遊びは、跳び箱に跳び乗ったり、跳び越したりすることや跳び箱から跳び下りたりすることを楽しむ運動である。また、運動する中でいろいろな跳び越し方や跳び下り方を見付けたり、友達の動きの真似をしたりして、いろいろな動きを楽しむ運動遊びである。

小学校指導要領解説体育編の中で、跳び箱を使った運動遊びでは、「跳び乗り」「跳び下り」「跳び越し」などが例示されているが、特に、「またぎ越し」は、腕を支点に体重を移動させるという点において、非日常的な運動である。そのため、不安感を持ちやすいことが課題である。そこで、低い跳び箱ややわらかい跳び箱などを用いた易しい場を中心に、児童がやってみたくなるような楽しい場を設定する必要がある。

低学年の時期に、跳び箱を使った運動遊びを通して、両足での踏み切り、腕を支点とした体重移動、膝を使ったやわらかい着地など跳び箱運動の基礎となる動きを身に付け、運動の楽しさを味わわせることは、中・高学年の跳び箱運動の中で、様々な動きを身に付ける上で、非常に重要である。

3 指導の手立て

(1) 課題解決的な学習展開

① 目指す動きの明確化

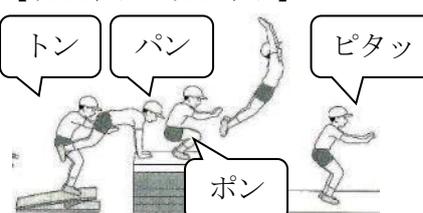
絵図を用いて、目指す動きを明確に示す。その際、リズム言葉を用いて児童が目指す動きをイメージできるようにする。

【踏み越し跳び】



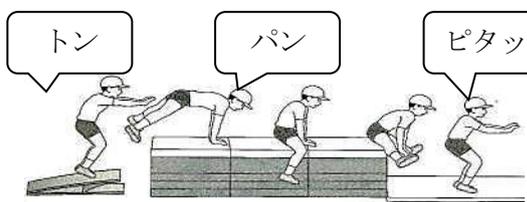
踏み切って跳び箱に跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりする。跳び下り際にはいろいろなポーズで跳び下りる。着地は、膝をやわらかく使ってピタッと着地する。

【跳び乗り・跳び下り】



踏み切って、跳び箱に両手を着いて跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりする。

【支持でまたぎ乗り・またぎ下り】



両足で踏み切り、跳び箱に両手を着いてまたぎ乗る。またいだ姿勢で腕を支点に体重を移動させてまたぎ下りる。

② 予備的運動の実施

動きの名前	運動感覚	効果的な動きにするための留意点
くま歩き	腕支持感覚	手の平全体を着けるようにする。腰を高く上げて、膝を伸ばして歩くことでしっかりと腕に体重が乗るようにする。 (合い言葉) ペたっ ひざまっすぐ
くも歩き	腕支持感覚	手の平全体を着けるようにする。 (合い言葉) ペたっ おなかを出す
あざらし歩き	腕支持感覚	手の平全体を着けるようにする。 (合い言葉) ペたっ ひじまっすぐ
うさぎ跳び	腕支持感覚	腕で支持し、手で突き離して跳ぶようにする。 (合い言葉) パンッ ピョン
かえるじゃんけん	腕支持感覚	腰を高く上げるようにする。しっかりと両腕に体重が乗るようにする。 (合い言葉) 両足高く ジャンケンボン
ケンパー遊び	リズム感	リズムよく片足跳びや両足での着地ができるようにするためにケンステップを置く。 (合い言葉) ケン ケン パー ケン ケン グー

③ 望ましい学び合いの姿の設定

望ましい学び合いの姿
友達の動きをよく見たり、友達の動きのまねをしたりしながら取り組む姿。

チャレンジタイムでは、「わくわくランド」という設定で場を作り、児童が様々な動きを試すことができるようにする。その際、友達の動きを見て真似をしたり、友達の遊び方を参考にしたりして、新しい遊び方を考えたりすることができるように、ペアやグループでの学習を仕組んで、児童相互の学び合いを生み出すようにする。また、チャレンジタイムを前半と後半に分け、その間にみてみてタイムを設定する。みてみてタイムでは、目指す動きの共有化を図るとともに、全員に経験させたい遊びをチャレンジタイム後半で試すように促す。

(2) 個に応じた指導と評価の一体化

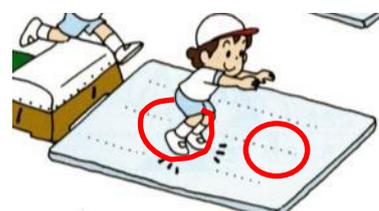
① 即時評価

評価補助簿による即時評価を行う。学習中に目指す動きが見られた場合はすぐに称賛の声かけを行い、動きの意識付けを図る。また、次のような課題に応じた場の設定と指導を行う。

ア 両足でうまく着地をすることができない児童に対して

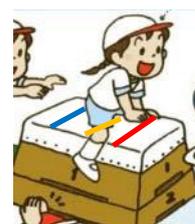
膝を曲げず、うまく着地ができない児童に対しては、両手で軽くマットを触るように声をかけ、膝を曲げることを意識させる。

また、両足をそろえて着地できない児童に対しては、マットにケンステップを置き、両足をそろえて着地することを意識させる。



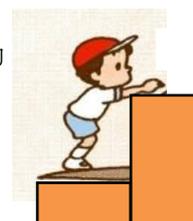
イ 腕支持で体を移動させることができない児童に対して

跳び箱にラインを引き、尻をラインまで移動させるように意識させることで、腕支持で体を移動させることを意識させる。



ウ うまく着手ができない児童に対して

ステージへの跳びあがりをさせることで両手を一緒に着き、体を持ち上げる動きを経験させる。ステージ上に手の平の絵（図1）を置き、両手をそろえて着くことを意識できるようにする。



② 個別の支援計画の作成と即時指導

前時の評価を本時の指導に生かすために、前時終了時点で「C」と評価した児童を中心に、本時の学習で「B」に導くための手だてを考え、支援計画を作成する。児童のつまづきを予想し、学習中に個に応じた指導が即時行えるようにすることで指導と評価の一体化を図る。

4 単元の目標及び指導と評価の計画

○単元の目標と評価規準（観点別評価規準）

	運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能
単元の目標	○ 場の安全に気を付け、跳び箱を使った運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ○ 運動の順番やきまりを守り、友達と仲よく器械・器具の準備や運動をしようとしている。	○ 跳び箱を使った運動遊びの行い方を知り、楽しく遊ぶことができる場や遊び方を選ぶことができる。 ○ 目指す動きを知り、友達のよい動きを見付けることができる。	○ 片足で踏みきって跳び箱に跳び乗ったり、ジャンプして跳び下りたりすることができる。 ○ 数歩の助走から両足で踏み切り、跳び箱に両手を着いて跳び乗ったり、またぎ乗ったり、移動してまたぎ下りたりすることができる。
学習活動における評価規準	① 跳び箱の運び方を知り、安全に気を付け、協力して準備や片付けをしようとしている。 (活動の観察・学習カード)	① 跳び箱遊びの行い方を知り、いろいろな遊び方をしている。 (活動の観察・学習カード)	① 踏み切り板を使って、片足で踏み切って跳ぶことができる。 (活動の観察・学習カード)
	② 自分ができる動きで、楽しく跳び箱遊びをしようとしている。 (活動の観察・学習カード)	② 友達のよい遊び方を見ついたり、真似をしたりして遊んでいる。 (活動の観察・学習カード)	② 手の平全体を跳び箱に着いて、跳び乗りやまたぎ乗りをしたり、移動してまたぎ下りをしたりすることができる。 (活動の観察・学習カード)
	③ 遊び方のきまりや順番を守って、友達と仲よく運動しようとしている。 (活動の観察・学習カード)		③ 両足で踏み切ることができる。 (活動の観察・学習カード)

○指導・評価計画

	1	2	3	4	5	6
(分)	学習準備（場づくり・準備運動）					
10	○まねっこタイムの行い方を知る。	予備的運動（まねっこタイム） ①カエルじゃんけん ②ケンパー遊び ③くも歩き ④くま歩き ⑤アザラシ歩き ⑥うさぎ跳び				
20	めあての確認・場づくり					
	○跳び箱遊びのきまりを知る。 ○跳び箱や踏み切り板などの運び方を知る。 ○どんな跳び箱遊びができるかためしてみる。	踏み越し跳び ○いろいろな跳び方で踏み越し跳び遊びを試す。	跳び乗り 跳び下り ○腕支持で跳び乗ったり、跳び下りたりする。	またぎ乗り またぎ下り ○様々な場でまたぎ乗りをしたり、体重移動をさせてまたぎ下りたりして遊ぶ。 (着手を意識)	またぎ乗り またぎ下り またぎ越し 横跳び越し ○腕支持でのまたぎ乗り、移動してからのまたぎ下り、跳び越しなどをして遊ぶ。 (両足での踏み切りを意識)	○前時までのコースを組み合わせ、自分たちで「わくわくランド」を作って遊ぶ。
	30	みてみてタイム				
40	○「わくわくランド」の遊び場を話し合い、今後の学習の見通しをもつ。	○踏み切りを意識して、いろいろな跳び方で踏み越し跳び遊びをする。	○コースを選んで、腕支持で跳び乗ったり、跳び下りたりする。	○コースを選び、腕支持でまたぎ乗りやまたぎ下りしたり、跳び下りたりする。	○またぎ乗り、またぎ下りに加え、またぎ越しや横跳び越しを入れて遊ぶ。	○できるようになったことや工夫したことを発表し合う。
45	学習のまとめ・整理運動・片付け					
関 思 技	①	②		③		
			①		②	
		①	②	②	③	③

5 具体的な展開

(1) 第3時目

① 主眼

いろいろなコースで跳び乗りをすることを通して、手の平全体を跳び箱に着いて腕支持で跳び乗ることができるようにする。

② 準備

跳び箱、マット、踏み切り板、ロールマット

③ 展開

子どもの活動の実際	指導・支援の実際
<p>1 学習準備をする。</p> <p>(1) まねっこタイムの場づくり</p> <p>(2) 準備運動</p> <p>(3) まねっこタイム</p> <p>① カエルじゃんけん</p> <p>② ケンパー遊び</p> <p>③ アザラシあるき</p> <p>④ くまあるき</p> <p>⑤ くもあるき</p> <p>⑥ うさぎ跳び</p>  	<p>○ キッズダンスをした後、リズムに合わせて屈伸などの準備運動をした。</p> <p>○ 正しい動きができていないかを確認し、できていない児童には個別に指導した。</p> <div data-bbox="874 869 1423 1361" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><くまあるき></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ ひざが曲がる児童に対して ○ 指で体を支える児童に対して <ul style="list-style-type: none"> ・ 手の平を床に付き、膝を伸ばして進むことを意識させ、身に付けることができるようにした。 <p><うさぎとび></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 腕支持ができない児童に対して <ul style="list-style-type: none"> ・ 「手・グッ・足」と声をかけ、腕で体を支えることを意識させた。 </div>
<p>2 本時のめあてを確認し、跳び箱等の準備をする。</p> <div data-bbox="375 1512 1161 1617" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>めあて りょうてをついて とびのって あそぼう。</p> </div>	<p>○ 前時までを振り返り、本時は高い跳び箱に手を着いて跳び乗ることを確認した。</p>
	<p>○ 目指す動きの確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手を開くことや手の平を跳び箱に着くことなど、着手の仕方を全員で共有した。 <div data-bbox="614 1774 1433 2072" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>T: 手の着き方は色々あるよ。(手をグーチョキパーと動かす。)</p> <p>C: ばあです。</p> <p>T: 手の着き方は…(手の平を浮かす。)</p> <p>C: 違う。</p> <p>T: (手の平をつける。)</p> <p>C: そう。つける。しっかりつける。</p> </div>

3 チャレンジタイム

(1) チャレンジタイム1

- ・ いろいろな場で、跳び乗り、跳び下りを使った遊びを考える。

- 「とびばこあそびのやくそく」の確認
 - ・ 順番を守る。
 - ・ 安全に気を付ける。「どうぞ」「行きます」
 - ・ 次の友達を見る。

- 手を着かずに跳び乗っている児童には、手を着いて跳び乗るように声かけをした。
- うまく着手ができない児童には、両手を一緒に上から振り下ろして着手するように声をかけたり、「ステージに上ろうコース」での練習を促したりした。

やまのぼりコース



わざありコース



だんだんコース



ロールマットコース



ステージに上ろうコース



(2) みてみてタイム

- ・ 友達の遊び方を見ることで、真似したり、新しい遊びを考えたりする。

- 両手をしっかり着いて跳び乗っている児童を取り上げ、どこに力を入れたか尋ね、腕に力を入れて体を持ち上げていることを確認した。



T : 手の形はどうなっていました。
M児 : ばあになってました。

T : どこに力が入った？

K児 : (腕をさする。)

F児 : 腕、腕！

T : しっかり手を着いて、ここにも力が入ったら跳び乗れる？



(3) チャレンジタイム2

- ・ みてみてタイムで見た動きを真似したり、新しい遊びを見つけたりする。

- 手の平全体を跳び箱に着いて跳び乗ることを意識しながら、色々な場で遊ぶように促した。
- 手の平を着き、腕支持ができている児童を称賛し、動きの意識付けを図った。



いろいろな場で、腕支持をして跳び乗りをしている児童たち

4 本時の学習を振り返り、まとめる。

- 手の着き方に視点をあて、どうすれば上手く跳び乗れたかを出し合い、まとめた。

A児： Mさんが両手をしっかり着いて上手だった。

N児： Mさんが手をしっかり開いてたからいいなと思った。



- T： 両手は？
C： ばあ。
T： 高いところに跳び乗る時は？手だけの力？
C： 手全部
T： 腕
C： 脚
T： 腕に力を入れるとどうなるの？
C： 高い跳び箱にも跳び乗れる。

まとめ

両手はばあで、腕に力を入れると、高いところにも跳び乗れる。

5 整理運動と片付けをする。

- 安全に気を付け、協力して片付ける様に声をかけた。

(2) 第4時目

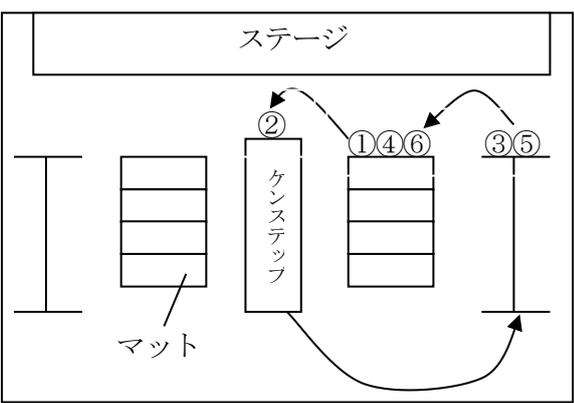
① 主眼

いろいろなコースでまたぎ乗りをしたり、支持で移動したりすることを通して、支持でのまたぎ乗りやまたぎ下りができるようになる。

② 準備

跳び箱、マット、踏み切り板、平均台、ケンステップ、CDラジカセ、掲示用資料

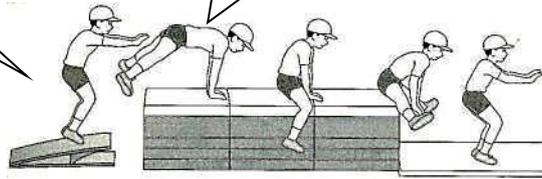
③ 展開

学習活動・内容	指導・支援上の留意点
<p>1 学習準備をする。</p> <p>(1) 場づくり</p> <p>(2) 準備運動</p> <p>(3) まねっこタイム</p> <p>① カエルじゃんけん</p> <p>② ケンパー遊び</p> <p>③ アザラシあるき</p> <p>④ くまあるき</p>  <p>⑤ くもあるき</p> <p>⑥ うさぎ跳び</p>  <p>2 本時のめあてを確認し、跳び箱等の準備をする。</p>	<p>○ 安全に留意し、友達と協力して行うように声をかけた。</p> <div data-bbox="766 638 1340 1041" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">ステージ</p>  </div> <div data-bbox="710 1041 1189 1142" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>腕支持感覚 手は「ぺたっ」 ひざをのばして</p> </div> <p>○ 正しい動きができていないかを確認し、できていない児童には個別に指導した。</p> <div data-bbox="710 1321 1324 1422" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>腕支持感覚 手を突き放して跳ぼう「パンッ、ピョン」</p> </div> <p>○ 前時までを振り返り、本時はまたぎ乗りやまたぎ乗りで進んで行くことを確認した。</p>
<div data-bbox="327 1668 1380 1803" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>めあて りょうてをついて とびばこに またぎのったり すすんだりして あそぼう。</p> </div> <div data-bbox="295 1825 582 2004" style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>手は「ペア」 手はそろえる 「パン」とつく</p> </div> 	<p>○ 前時で見つけたポイントと着地のポイントを確認した。その際、図を提示し、よりイメージできるようにした。</p>

両足でトンと踏み切る。

手を広げて、パンと手を着く。

ピタッと着地する。



- ・ チャレンジタイムの場づくりをする。

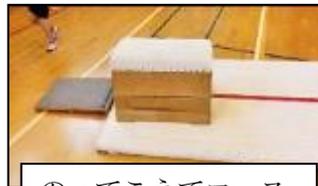
3 チャレンジタイム

(1) チャレンジタイム1

- ・ いろいろなコースでまたぎ乗ったり、進んだりしてみる。



ロールマットコース



のってこえてコース



ながーいぞコース



だんだんコース



やまのぼりコース



のぼってくだってコース



手で跳び箱をグッと
おしたら3つ目も乗
れたよ。

- またぎ乗るといことは、おしりで乗るといことを確認した。
- 事前に児童と話し合って決めた遊び場をグループごとに準備させた。その際、跳び箱などの持ち方、運び方を確認し、安全に気を付け協力して行うようにさせた。T1、T2で分担を決め、安全面の指導を行った。

- 上記のコースを設定した。
- いろいろなコースをチャレンジしてみるよう声かけを行った。
- 手の平全体を「パン」と跳び箱についている児童に称賛の言葉かけをし、手の着き方を意識させる。
- 体重移動をして進むことができていない児童には、手を着く位置や腕を支点におしりを上げることを助言したり、示範して見せたりして、手で跳び箱を押す感覚を身に付けることができるようにした。



強くおしたら、乗れ
そうだ。



T : 手は「ペア」
しっかりついて！おしりを上げよう
C : またぎ乗れたよ。



ロールマットでもまたぎ乗りができたよ。進
んできて、さあ「じゃんけん」



○ 飛び下りている児童には、両手で体を支えて下りるよう
に声をかけた。

手で跳び箱を押したらおしりがあがったよ。
足は「グー着地」ができたよ。

(2) みてみてタイム



○ 手の平全体を着いてまたぎ乗りをしている児童や、腕で
支持しうまく体を移動させることができる児童を紹介した。その際、手の着き方や腕の使い方に視点を置いて
見合わせた。

T : 手は？
C : パアになっている。そろっている。
T : 腕は？
C : まっすぐ

T : 進むとき、おしりはどうなっている？
C : 上がっている。
C : 腕で支えてる。
T : 腕で支えて、おしりを上げて進むといいんだね。

- (3) チャレンジタイム2
・サーキット遊びをする。



ここまで進めたよ。

- 4 本時の学習を振り返り、まとめる。



- 5 整理運動と片付けをする。

- チャレンジタイム1のコースをつなげてサーキット遊びをした。
- 順番を守って、みんなで仲よく遊べるよう約束を確認した。
- T1、T2でコースを分担して見取り、安全面に配慮した。
- またぎ乗りで進むことができるようになった児童への称賛の言葉かけを行い、がんばりを広めた。

- 「今日のキラリ」(自分や友達のがんばりやよかった動きや言葉)を発表させ、本時のがんばりをみんなで認め合わせた。

C: 腕の力を入れて、おしりをもちあげるようにしたらよかった。
C: 手で支えたらいい。

- 次時は「1の2わくわくランド」のレベル4に進むことを確認し、意欲をつなげた。
- 安全に気を付け、協力して片付けを行うように言葉かけを行った。

(3) 第4時目

① 主眼

友達と動きを見合いながらわくわくランドで遊ぶことを通して、両手を着いてまたぎ乗ったり、腕を支点に体重を移動させたりすることができるようにする。

② 準備

ケンステップ、跳び箱、マット、踏み切り板、平均台、CDラジカセ、掲示用資料

③ 展開

学習活動・内容	指導・支援上の留意点
<p>1 学習準備をする。</p> <p>(1)まねっこタイムの場づくり</p> <p>(2)準備運動</p> <p>(3)まねっこタイム</p> <p>①カエルじゃんけん</p> <p>②ケンパー遊び</p> <p>③アザラシあるき</p> <p>④くまあるき</p> <p>⑤くもあるき</p> <p>⑥うさぎ跳び</p>	<p>○ 正しい動きができているかを確認し、できていない児童には個別に指導した。</p>



<くもあるき>

手の平全体を着けるようにする。腰を高く上げるよう声かけを行った。

<うさぎとび>

突き放しができるように、跳んだ後にうさぎの耳を作る様に声かけを行った。

2 本時のめあてを確認し、跳び箱等の準備をする。

○ 前時までを振り返った。また、児童の試技を見せながら本時はまたぎ乗りやまたぎ乗りで進むことを確認した。



T : この前はどんな跳び乗り方をしましたか。

C : 膝で乗る、足の裏で乗る、お尻で乗る。

T : そうだね。この前の時間の最後にお尻で乗った後に、Mさんにやってもらったことを覚えてる？ちょっと今日もやってもらおうか。(写真)

T : 乗った後に何をしていた？

C : お尻で乗った後に進んだ。

T : そうだね。今日はお尻で乗った後に進んでみましょう。

めあて

りょうてをついて とびばこに またぎのったり すすんだりして あそぼう。

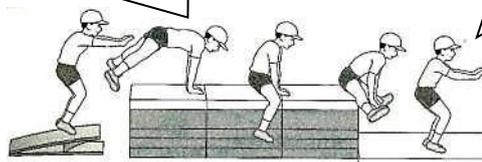
○ またぎ乗る・・・お尻で乗るということを確認した。

○ 3つのポイントを確認した。

・ 手はパー。 ・手をそろえる。 ・「パン」とつく。

手を広げて、パンと手を着く。

ピタッと着地する。



3 チャレンジタイム

(1) チャレンジタイム1

・ いろいろなコースでまたぎ乗ったり、進んだりする。

○ またぎ乗りからうまく前に進むことができない児童には、手を着く位置を助言したり、示範して見せたりして、腕を支点にして体重を移動させる感覚を身に付けることができるようにした。

○ T1とT2とで即時評価を行い、できていない場合はT2が中心となって、ステージへの跳び上がりやうさぎ跳びの場で個別指導をした。

- うまく着手ができず、体を支えることができないY児にステージの跳びあがりの場で練習するよう声をかけた。初めは、跳びあがった後、膝で着地していた。(写真1) マットを強く押すよう声かけをしたり、示範したりした。(写真2) 再び試技をした際には、マットを強く押し、片足を立てて着地することができるようになった。(写真3)



(ロールマットコースでまたぎ乗り、腕支持をして移動するK児)



(山のぼりコースで跳び箱を強く押し、登ろうとするN児)



(2)みてみてタイム

- ・ 友達の遊び方を見ることで、真似したり、新しい遊びを考えたりする。

- 手の着き方に注目して動きを見るように声をかけた。
- 両手を着いてまたぎ乗りをしている児童や腕を支点にしてうまく体重を移動させることができる児童を紹介し、よい動きとして共有化した。その際、手の着き方や腕の使い方に視点を置いて見合わせた。

- 腕を支点にしてうまく体重を移動させることができる児童を紹介した。(写真4) その際、手や腕がどのようになっているかを確認するよう声かけを行った。試技の後、見ていた児童から「手はパー」「パンと手をつく」「手をそろえる」といった意見が出た。試技をした児童には、どこに力を入れ進んでいるのかを確認したところ、「腕に力を入れて進んでいる」と発言した。(写真5) 腕に力を入れて進むこと、少ない回数で進むことを目標にして、チャレンジタイム2に取り組むように声かけをした。



写真4



写真5

(3) チャレンジタイム2

- ・ ウォッチングタイムで見た動きの真似をする。

- T1、T2でコースを分担して即時評価し、腕を支点にしてうまく体重を移動させることができるようになった児童へ称賛の言葉かけを行い、よい動きとして広めた。

○ 腕で体を支えることを意識して試技を行い、少ない回数で跳び箱を進むことができたK児。



○ はじめは、うまく跳び箱を押せず、よじ登ろうとしていた。(写真6)しかし、跳び箱を強く押すことができるようになり、高い跳び箱へ進むことができるようになったI児。(写真7)



4 本時の学習を振り返り、まとめる。

○ 両手をそろえて着手し、腕を支点に体重を移動させることができるようになった児童の動きを見せた。

まとめ

りょうてで かえるが とぶように すすむと すすみやすい。

5 整理運動と片付け。

○ 安全に気を付け、協力して片付けるように声をかけた。

6 場の設定

○ 児童たちが、遊びながら目指す動きが身に付けられるように場を工夫した。毎時間、児童の実態に応じて少しずつ変化させることで効果的になった。

〈跳び乗り・跳び下り〉



柔らかいために、抵抗感が少なく、恐怖心のあった児童も自信をもって挑戦することができた。



児童が、「手はペア」ができているかを互いに確認しやすかった。



ステージへの跳び乗りは、腕支持感覚を身に付けることに効果的であり、楽しく運動できる場であった。

連続した動きの楽しさがあった。腕支持で跳び乗ることができた。1段目が低く、またぎ乗ると足がついてしまうことが課題。

【資料11】〈またぎ乗り〉



またぎ乗って進む場合は、つなげることで、長く進めるようにした。柔らかく、低いため苦手な児童も意欲的に取り組むことができた。



跳び箱をつないで長くすることで、何回で進めるかなど遊びを広げることができた。跳び箱の線で、目標地点を意識することができた。



最初の跳び箱を2段に変え、またぎ乗りで足がつかないようにした。